



茨木市文化・子育て複合施設おにクル



茨木市元茨木川緑地

都市再生整備計画 事後評価資料

令和7年1月27日
市民文化部 共創推進課

1. 都市再生整備計画事業の制度概要

都市再生整備計画（都市構造再編集集中支援事業）とは

「立地適正化計画」に基づき、都市機能や居住環境の向上に資する公共公益施設の誘導・整備、居住の誘導の取組等に対し集中的な支援を行い、持続可能で強靱な都市構造へ再編を図ることを目的とする事業です。

本事業は市が作成した都市再生整備計画に基づき、総合的・戦略的に事業を実施することで、相乗効果・波及効果が期待されるとともに市の自主性・裁量性を最大限発揮することにより、個性あふれるまちづくりを行うことができます。

また、継続的な都市再生を推進するため、事前にまちづくりの目標を定量化した数値目標を設定し、事後評価において目標の達成状況や事業の成果を踏まえた今後のまちづくり方策などを作成します。

本市では令和2年度に都市再生整備計画【茨木市中心拠点再生地区】を策定し、令和2年度～令和5年度の4年間事業を実施してきました。

市町村が立地適正化計画を作成・公表

まちづくりの方針、都市機能誘導区域・居住誘導区域等を設定



まちづくりに必要な事業を都市再生整備計画に位置づけ

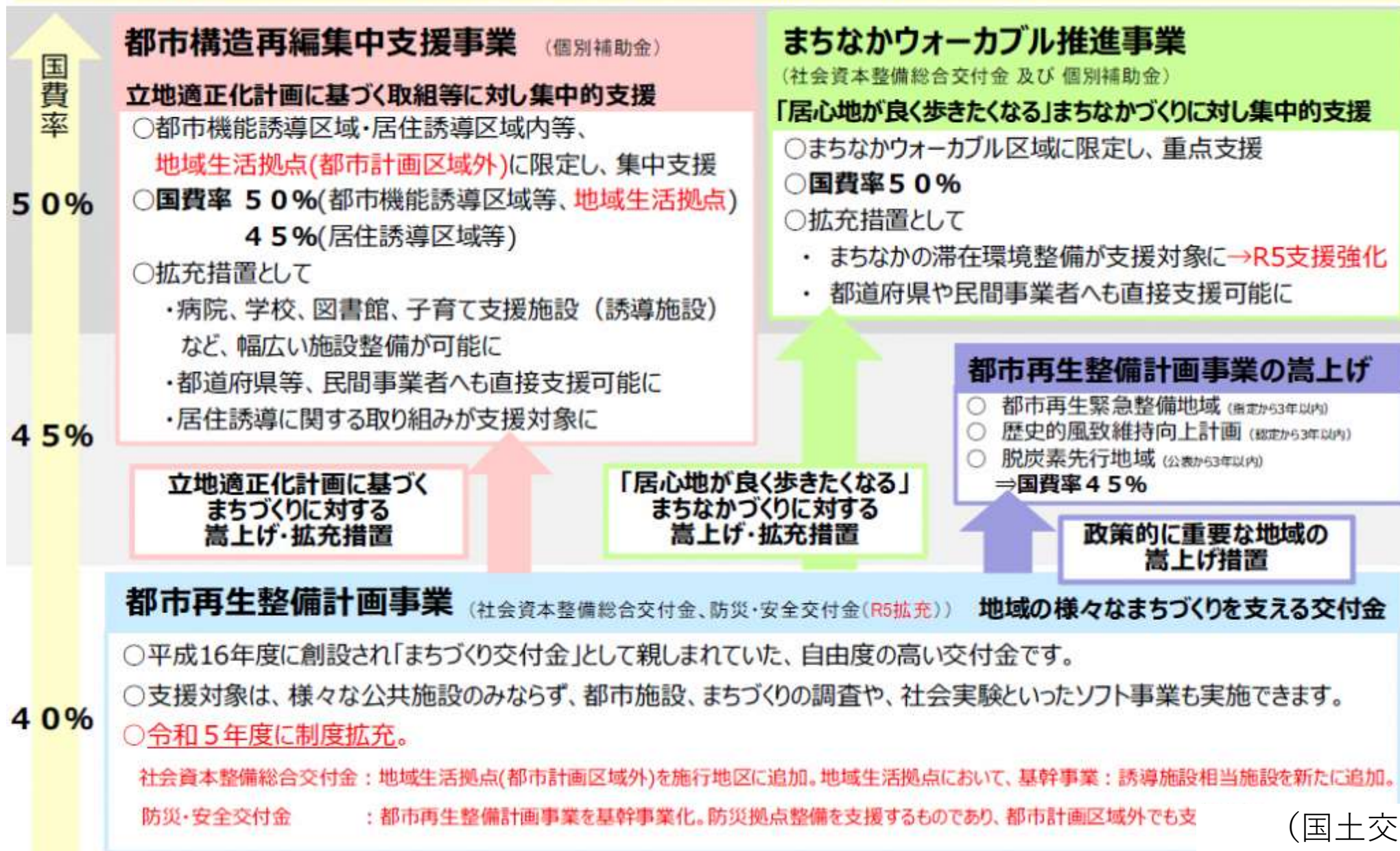
市町村が都市再生整備計画を作成・公表

都市構造再編集集中支援事業による支援



都市再生整備計画関連事業の相違点（主なもの）

○ 都市再生整備計画関連事業は、様々な政策目的に応じて、高上げ・拡充措置が設けられています。



都市再生整備計画関連事業で実施可能な事業（主なもの）

○ 都市再生整備計画関連事業は、様々な政策目的に応じて、事業メニューを選択することができます。

都市構造再編集中支援事業（個別補助金）

立地適正化計画に基づく取組等に対し集中的支援

<p>誘導施設・基幹的誘導施設・既存建造物活用事業（誘導施設）</p> <p>医療・福祉施設 子育て支援施設 図書館・博物館</p>	<p>居住誘導促進事業 R5 拡充</p> <p>居住誘導区域へ移転を希望する者への支援</p>
--	--

まちなかウォーカブル推進事業

（社会資本整備総合交付金 及び 個別補助金）

「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくりに対し集中的支援

<p>滞在環境整備事業 R5 拡充</p> <p>滞在環境の整備の推進に関する事業等</p>	<p>計画策定支援事業</p> <p>重点的に取り組むテーマに応じた事業計画の策定</p>
--	---

<p>誘導施設相当施設 ・既存建造物活用事業（誘導施設相当施設） R5創設 都市計画区域外の地域生活拠点内（社会資本整備総合交付金のみ）</p> <p>医療・福祉施設 子育て支援施設 図書館・博物館</p>	<p>高次都市施設</p> <p>地域交流センター 観光交流センター テレワーク拠点施設 ワーケーション拠点施設 子育て支援施設 複合交通センター</p>	<p>既存建造物活用事業 （誘導施設除く）</p> <p>既存建造物を活用した高次都市施設等</p>	<p>道路 R5 拡充（ウォーカブルのみ）</p> <p>公園 ※小規模な公園も対象</p>	<p>地域生活基盤施設</p> <p>広場・緑地 情報機 駐車場 駐輪場 地域防災施設 人工地盤（デッキ・地下道） 再生可能エネルギー施設</p>	<p>高質空間形成施設</p> <p>緑化施設 電線類地中化 歩行支援施設（バリアフリー施設） 情報化基盤施設（キャッシュレス）</p>
	<p>河川/下水道</p>	<p>エリア価値向上整備事業</p> <p>既存ストックを活用し官民連携でエリア価値向上の取組</p>	<p>区画整理・再開発</p>		<p>提案事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業活用調査 まちづくり活動推進事業 地域創出支援事業
	<p>住宅系事業</p> <p>優良建築物等整備事業 公営住宅等整備 等</p>	<p>まちなみ環境整備事業 等</p>			

都市再生整備計画事業（社会資本整備総合交付金※1、防災・安全交付金（R5創設）※2）

地域の様々なまちづくりを支える交付金

※1（都市計画区域外の地域生活拠点内）、※2（都市計画区域外の防災拠点内）：一部基幹事業を除く。

都市再生整備計画の流れ【PDCAサイクル】



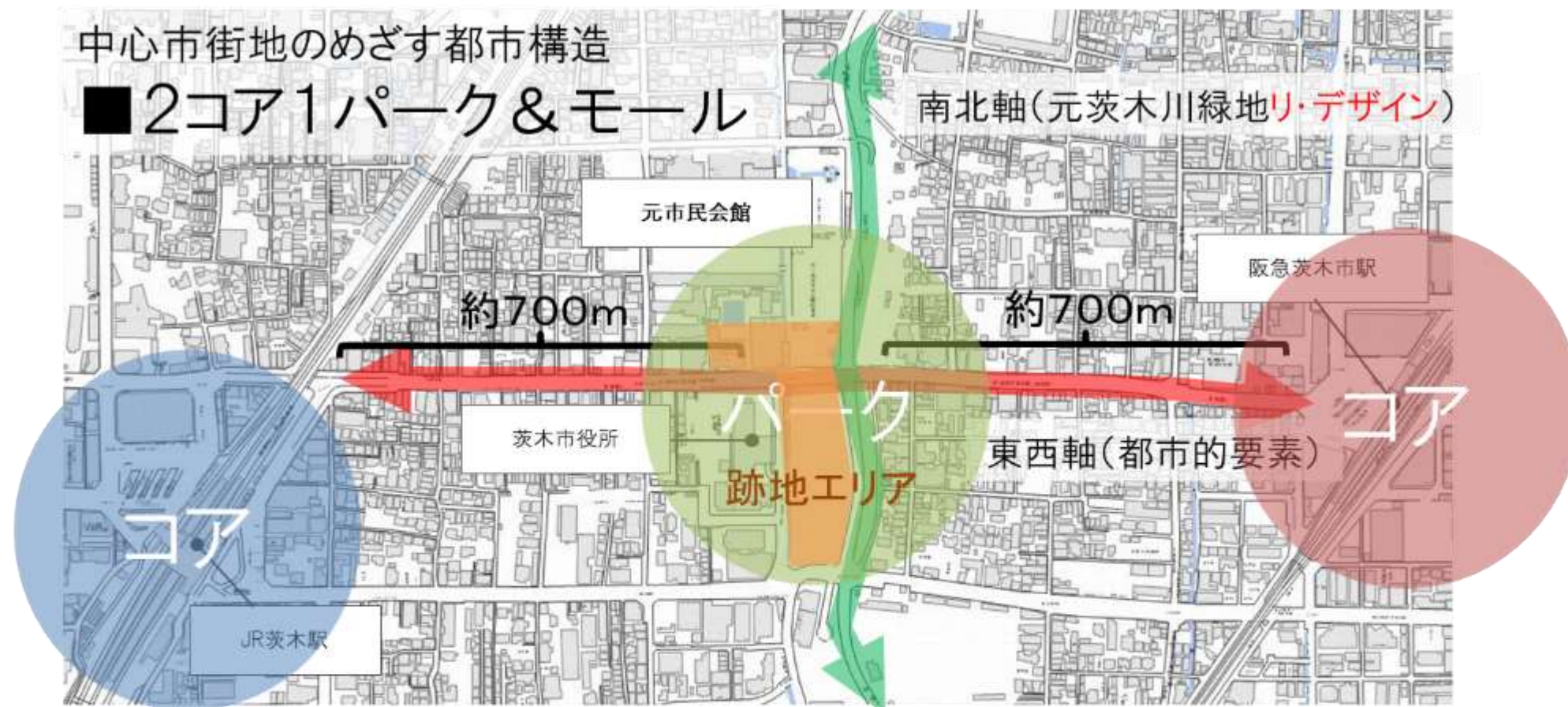
■ 事後評価の目的

事後評価は、都市再生整備計画によって得られた成果やその実施過程、成果の要因などを客観的に評価・分析し、今後のまちづくりのあり方を検討することや事業の成果などを市民にわかりやすく説明することを目的としています。

■ 事後評価の主な内容

- ・ 事業の成果及び実施過程の検証 …まちづくり目標の達成状況等について検証
- ・ 今後のまちづくり方策の検討 …「事業の成果及び実施過程の検証」等を踏まえ、交付終了後のまちづくり方針や、未解決の課題改善のあり方等を検討

2. まちづくりの概要

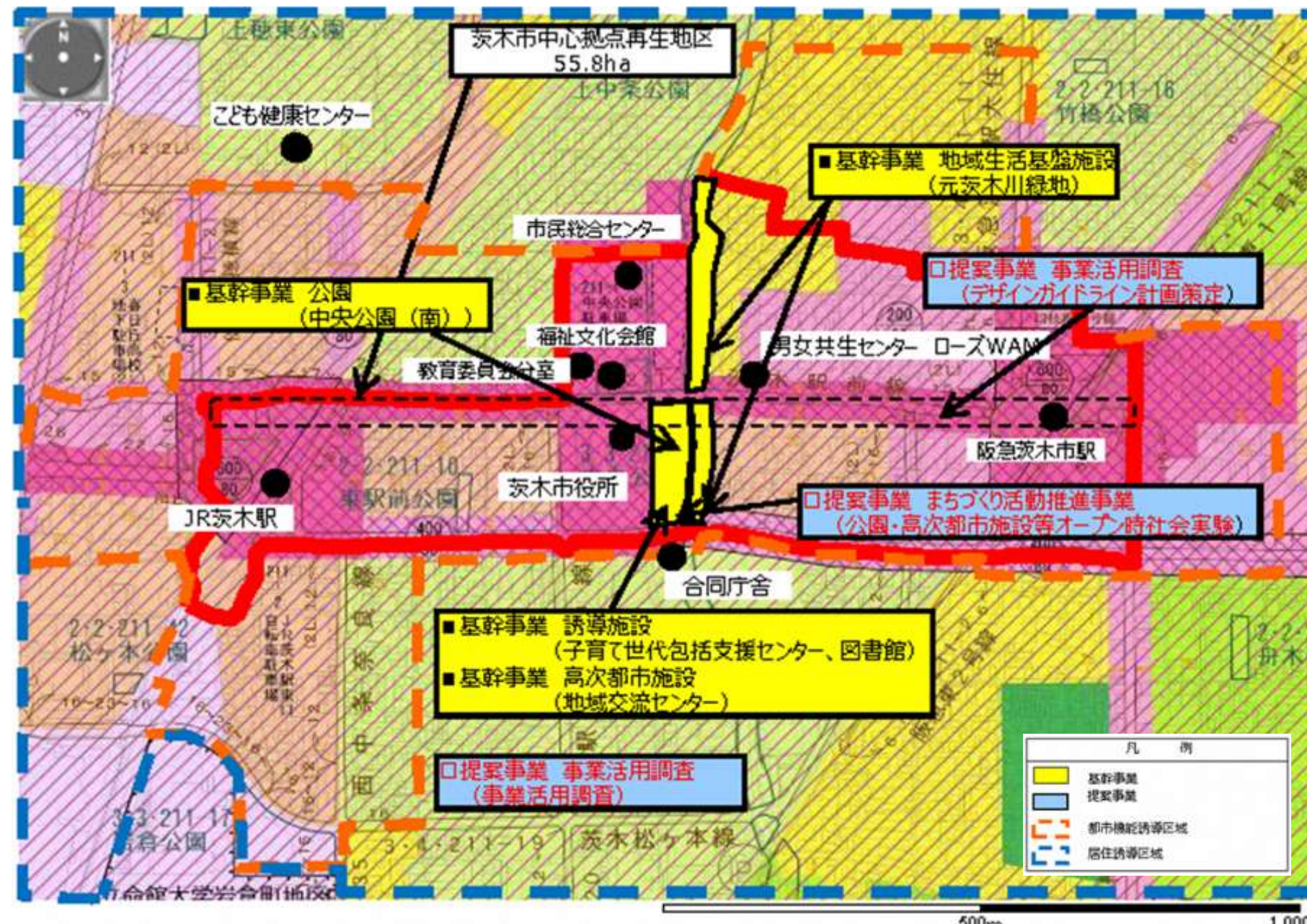


JR茨木駅、阪急茨木市駅のほぼ中間地点で、市役所などの行政機関にも近接しており、茨木市の中心といえる立地。

人が日常的に歩ける距離は、だいたい800mくらいと言われる中で、両駅の間である市民会館跡地が新たな目的地や中継地となれば、中心市街地の回遊性が向上し、**ウォーカブルなまち**になるかもしれない

本市における地区概要

本計画は平成30年度に策定した茨木市市民会館跡地エリア活用基本計画に基づき、令和2年度から事業を開始いたしました。



都市再生整備計画 (R2~R5)

大目標

都市機能再編を契機とした、シビックプライド及び利便性の向上と、人々が賑わい・集い・憩うことの出来る魅力あるまづくり

全体事業費

6889.5百万円 (国費率50%)

主な事業

公園事業、地域生活基盤事業 (元茨木川緑地)、高次都市施設、誘導施設 (図書館、社会福祉施設)

まちづくりの範囲と課題

まちづくりの範囲

- ・茨木市の中心市街地 約55.8haの区域

まちづくりの課題

- ① 公共施設の老朽化に伴い必要となる都市機能の再編による、コンパクトなまちづくりの推進
 - ・市民会館が老朽化のため閉館しただけでなく、他の公共施設や緑地等も同様に老朽化が著しく、改修等の対応が必要な状況である。本地区の核となる施設の整備とともに、拠点性のある公共施設整備が必要である。
- ② 市民ニーズをふまえた利便性の高いまちづくりの推進
 - ・市民ニーズに基づく、市民の生活利便性向上に向けた多機能施設の整備が必要である。
- ③ 中心市街地における回遊性の向上
 - ・本地区の核となる施設を単に整備するだけでなく、周辺地域（中心市街地）への波及効果を生み出すために、回遊性の向上に努める必要がある。

まちづくりの目標と指標

まちづくりの目標

【大目標】

“都市機能再編を契機とした、シビックプライド及び利便性の向上と、人々が賑わい・集い・憩うことの出来る魅力あるまちづくり”

- 目標1 都市機能再編による、新たな市の顔としての拠点形成を契機とした、市民が誇れるまちづくり
- 目標2 市民ニーズを踏まえた、新たな機能導入による文化複合拠点創出による、利便性の高いまちづくり
- 目標3 市民が集い、誰もが交流し憩える交流空間を創出することによる、賑わいのあるまちづくり

事業効果を測る指標

- (指標1) 大ホール利用率
- (指標2) 子育て関連施設利用者数
- (指標3) 図書館利用者数（図書館貸出人数）
- (指標4) 元茨木川緑地に対する不満足度

■高次都市施設（地域交流センター）、誘導施設（子育て世代包括支援センター、図書館）、公園（中央公園（南））

文化複合拠点「おにクル」の整備により、公共建築物の集約化・複合化が実現することで、多様化する市民ニーズへの対応が可能となり、市民の利便性が向上。

また、大ホール、図書館、子どもの遊び場などが確保され、幅広い世代が集う場を形成。

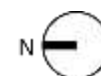
「中央公園（南）」と「おにクル」が連続することで、多様な活動が可能となり、まちの賑わいが向上。

整備前



整備後





北側) オープンスペース < ————— > ホール (南側)

- 7F 市民活動センター
プラネタリウム
- 6F 図書館
- 5F 図書館
- 4F ホワイエ
- 3F スタジオ・楽屋
- 2F 子育て支援センター
- 1F 屋内遊び場
エントランス広場

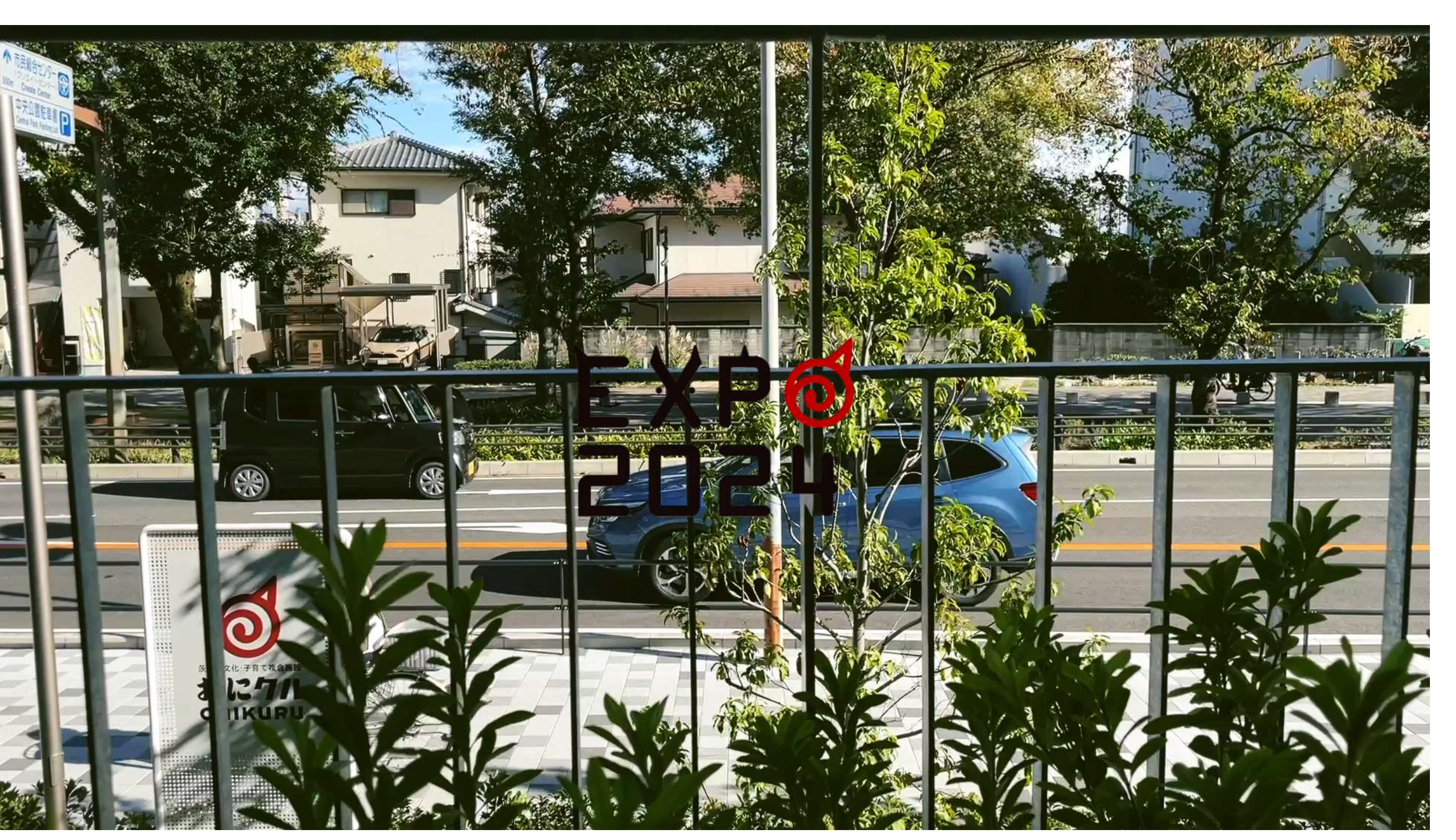


市民総合センター
30m Civic Center
中央公園管理事務所
Central Park Facility Ltd

EXP
2024



文化・子育て総合センター
まにま
ONIKURU



■ 地域生活基盤（元茨木川緑地）

「おにクル」と連動する形で元茨木川緑地の整備がなされ、「おにクル」を含めた中央公園との一体的・面的な交流・憩い空間が創出。

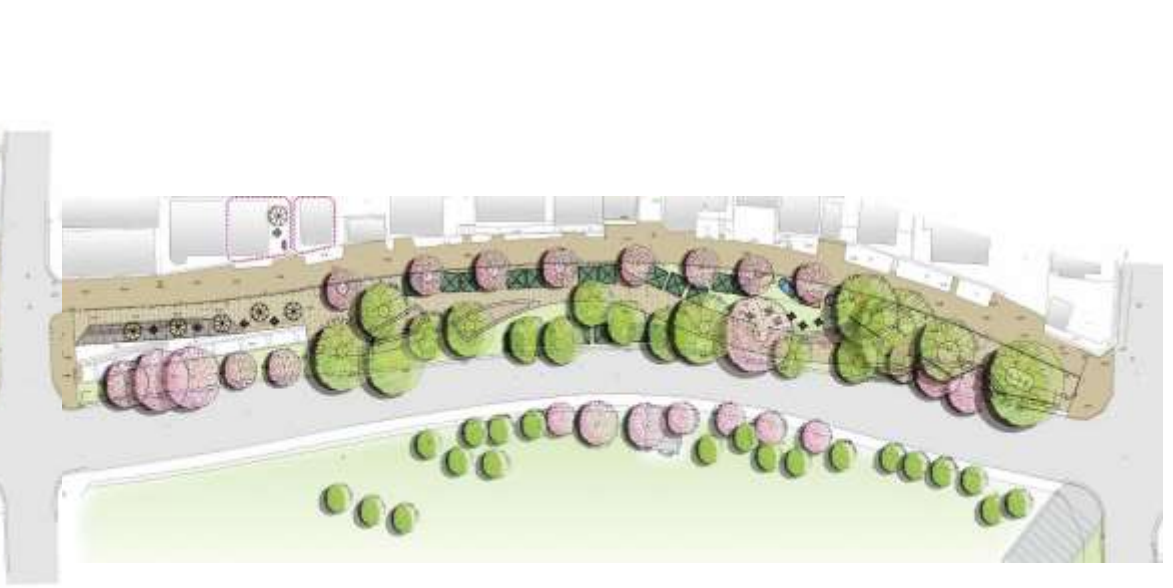
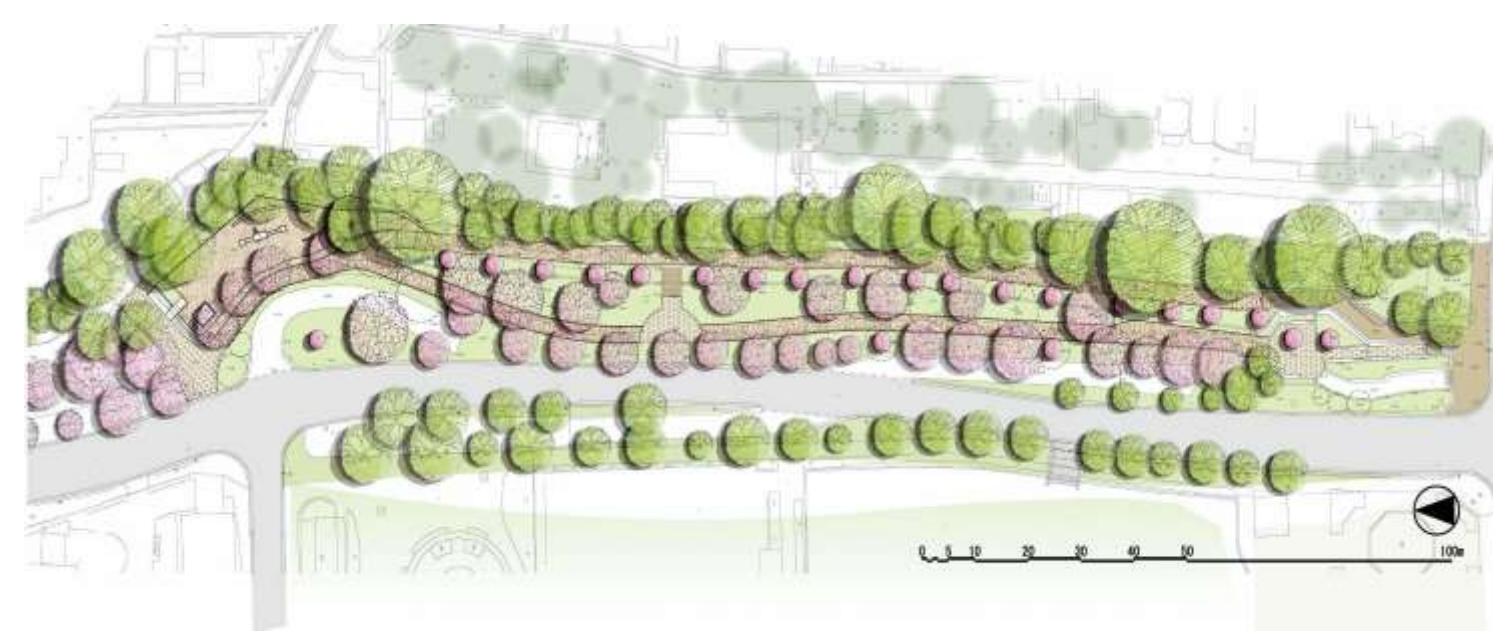
整備前



整備後



元茨木川緑地



3. 事後評価について

事後評価とは

1 事後評価の目的

都市再生整備計画によって得られた成果やその実施過程、成果の要因などを客観的に評価・分析し、今後のまちづくりを適切な方向に導くとともに、事業の成果などを市民にわかりやすく説明すること。

2 事後評価作業の主な実施内容

- ①方法書の作成（事後評価の円滑な実施のための実施計画書作成）
- ②事業効果の検証（指標の計測：目標達成状況の確認）
- ③事後評価シートの作成
（事業効果を定量的・定性的に市民等へ説明し、事業効果や事後評価作業の手続きが妥当であることを確認）

事後評価の目的

事後評価の主体は市町村であるため、評価作業の具体的な進め方や目標が達成されたか否かの判断、今後のまちづくり方策や改善策の必要性など、事後評価手続きの大部分が市町村の自主的な運営と判断に委ねられています。

従って、事後評価委員会においては、下記2点が主な目標となります。

- ①市町村による事後評価作業が適切に遂行されたことを、中立・公平な第三者の立場で確認していただき意見を求めること**
- ②今後のまちづくり方策等について意見を求めること**

事後評価の実施スケジュール

①方法書の作成(事後評価手法の決定)



②事業成果の計測及び実施過程の評価の実施



③事後評価シート原案の作成



④庁内意見聴取の実施(事後評価のとりまとめの確認)



⑤事後評価原案の住民への公表・意見受付



⑥事後評価委員会での報告



⑦事後評価シートの国への提出



⑧事後評価結果の住民への公表

※国・府の確認が済み次第

建設事業評価委員会での確認事項

ア. 事後評価手続き等にかかる意見聴取

(1) 成果の評価について

事業実施状況、従前従後指標数値結果確認、定性的評価

(2) 実施過程の評価について

住民参加プロセスの確認

(3) 事業の効果発現要因の整理等について

効果発現要因の整理、事後評価原案の公表等

イ. 今後のまちづくりについて意見聴取

今後のまちづくり方策について

今後のまちづくり方策、フォローアップ計画

4. 事後評価の結果について

(1) 成果の評価

■ 数値指標の結果一覧

	指標	単位	従前値	目標値	評価値	達成度判定
1	大ホール利用率	%	62 (H26)	72 (R5)	74.7 (R6)	○
2	子育て関連施設利用者数	人/年	58,749 (H30)	73,100 (R5)	123,412 (R5.12~R6.11)	○
3	図書館利用者数 (図書館貸出人数)	人/年	121,765 (H29)	134,400 (R5)	184,987 (R5.12~R6.11)	○
4	元茨木川緑地に対する 不満足度	%	48.5 (H27)	43.6 (R5)	39.8 (R6)	○

(2)実施過程の評価

住民参加プロセスの実施状況①

【実施内容】 文化複合施設の設計ワークショップ

将来、文化複合施設を利用する市民と一緒に、施設等の設計を考えるワークショップを実施した。

■文化複合施設の設計ワークショップ

【実施状況】 令和3年7月19日、8月22日、9月11日、11月20日、令和4年3月13日の計5回実施

【実施結果】 文化複合施設でやってみたい事や使い方など一緒に考えていき必要な備品や設備に反映し、最終回ではワークショップで出た意見を踏まえた設計内容の展覧会を開催してワークショップ参加者以外にも広く周知を行った。

【今後の対応方針】

文化複合施設からまちの中へ活動を広げていくべく、人や場の育成に努める。



(2)実施過程の評価

住民参加プロセスの実施状況②

【実施内容】 いばらきストリートデザインワークショップ

中心市街地の東西軸となる中央通りと東西通りにおけるデザインガイドライン計画策定に向けた将来像(素案)を検討するため、市民と専門家を交えたワークショップを実施した。

■いばらきストリートデザインワークショップ

【実施状況】 <ワークショップ> 令和3年10月17日、11月14日、12月19日の計3回実施

<勉強会> 令和3年9月16日、令和4年2月6日の計2回実施

【実施結果】 各回平均で約35名が参加し「将来の姿（将来イメージ）」を検討し、より魅力的な通りにするための取組みや空間活用アイデアなどを参加者間で話し合った。



【今後の対応方針】

将来的な中央通りと東西通りの一方通行化に向けて構想の検討を進めていくべく、沿道の機運醸成に努める。



(2)実施過程の評価

住民参加プロセスの実施状況③

【実施内容】 社会実験「茨木みちクル」

「いばらきストリートデザインワークショップ」の結果を踏まえ、具体的な将来イメージの共有および実現にあたっての課題等を検証するため、社会実験を実施した。

■ 社会実験「茨木みちクル」

【実施状況】 令和4年11月3日～30日（28日間）、令和5年11月25日～26日（2日間）の計30日間、2回実施

【実施結果】 令和3年度に実施した「いばらきストリートデザインワークショップ」を踏まえ、魅力的な通りや空間を生み出すための社会実験を実施。令和5年度は沿道の店舗も協力する社会実験となり、盛り上がりを見せた。



【今後の対応方針】

将来的な中央通りと東西通りの一方通行化に向けて構想の検討を進めていくべく、沿道の機運醸成に努める。



(3) 効果発現要因の整理

事業の効果発現要因の整理①(達成指標)

数値指標の達成及び未達成について、各実施事業がどのように関係し効果を発揮しているか等を整理

達成した指標		指標1	指標2	指標3	指標4
事業名		大ホール利用率	子育て関連施設利用者数	図書館利用者数 (図書館貸出人数)	元茨木川緑地に対する不満足度
基幹事業	公園	中央公園(南)	◎	◎	◎
	地域生活 基盤施設	元茨木川緑地	◎	◎	◎
	高次都市 施設	地域交流センター	◎	◎	◎
	誘導施設	社会福祉施設(子育て世代包括支援センター)	◎	◎	◎
		教育文化施設(図書館)	◎	◎	◎
提案事業	デザインガイドライン計画策定		—	—	○
	事業活用調査		—	—	—
	立地適正化計画改定		○	○	—
	公園・高次都市施設等 オープン時社会実験		◎	◎	◎

◎：指標改善に直接的に関係 ○：指標改善に間接的に関係
 △：効果を期待したが、指標改善に貢献しなかった —：関係しない

事業の効果発現要因の総合所見①(達成指標)

指標名	総合所見
指標1 大ホール利用率	都市機能再編による、新たな市の顔として大ホールを含む「おにクル」という拠点が形成された。「おにクル」は多様な機能が集積しており、その開館前後には周辺で多数の社会実験やイベント等が実施された。その結果、市民のシビックプライドが醸成され、市民が誇れるまちづくりが進んだと考えられる。そうした状況から考察すると、「おにクル」の整備とその一連の取り組みは、「おにクル」が市民が誇れる「ハレの場」となることの一助になると共に、大ホールの利用率増加にも貢献したと考えられる。
指標2 子育て関連施設 利用者数	今回の事業により、子育て関連施設利用者数が増加することとなったが、これは子育て関連施設を集約（ワンストップサービス化）するなど文化複合拠点創出による、子育て家庭の利便性向上が要因の一つと考えられる。
指標3 図書館利用者数 (図書館貸出人数)	今回の事業により、図書館利用者数が増加することとなったが、これは子育て関連施設をはじめとした文化複合拠点の創出による、幅広い世代にとっての利便性向上が要因の一つと考えられる。
指標4 元茨木川緑地 に対する不満足度	今回の事業により、元茨木川緑地に対する不満足度が減少することとなったが、これは元茨木川緑地の再整備と、「おにクル」を含めた中央公園との一体的な交流・憩い空間の創出が要因の一つと考えられる。



指標名	今後の活用
指標1 大ホール利用率	今後も多様化する市民ニーズに対応する為、ニーズ把握に努めるとともに、施設の適切な維持管理を図り、官民連携の取組等による利用の促進を検討していく。
指標2 子育て関連施設 利用者数	今後も多様化する教育・保育ニーズをはじめとした子育て世代のニーズに対応する為、ニーズ把握に努めるとともに、施設の適切な維持管理を図り、官民連携の取組等による利用の促進を検討していく。
指標3 図書館利用者数 (図書館貸出人数)	今後も多様化する市民ニーズに対応する為、ニーズ把握に努めるとともに、施設の適切な維持管理を図り、官民連携の取組等による利用の促進を検討していく。
指標4 元茨木川緑地 に対する不満足度	今後も多様化する市民ニーズに対応する為、ニーズ把握に努めるとともに、施設の適切な維持管理を図り、官民連携の取組等による利用の促進を検討していく。

(4) 事後評価シート原案の公表

事後評価シート原案の公表について

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間
インターネット	市のホームページに掲載	令和6年12月9日～ 令和7年1月9日	同左
閲覧	窓口閲覧	令和6年12月9日～ 令和7年1月9日	同左



■住民意見

- ・おにクルの整備と一体で元茨木川緑地の整備がなされ、樹木が鬱蒼として近寄りにくかった場所がデッキ等休憩できるようになり、また北側の茨木神社横は自転車と歩行者が分離されて、歩きやすい緑地になり、とても有り難いです。
- ・元茨木川緑地の整備について、従前の樹木が鬱蒼とし薄暗い雰囲気から、樹木を間引いたことにより明るくなり、また、ウッドデッキなど座って憩うことができる空間ができたことで過ごしやすくなったことが良い。また、自転車と歩行者の通行分離が図られたことにより安全な空間になった。今後も引き続き、公共空間の質の向上に取り組まれない。
- ・今までの鬱蒼としていた緑地がスッキリして素晴らしいですね。おにクルを背にした元茨木川緑地の景観も良いと思います。
- ・おにクルが出来、これまでどこにこれだけの人があったらと思うくらい人がいます。
夜は学生さんが頑張っていて将来が楽しみです。

5. 今後のまちづくり方策

まちの課題の変化

事業前の課題が事業の実施によりどのように変化したかをまとめた

○公共施設の老朽化に伴い必要となる都市機能の再編による、コンパクトなまちづくりの推進

- ・ 市民会館が老朽化のため閉館しただけでなく、他の公共施設や緑地等も同様に老朽化が著しく、改修等の対応が必要な状況である。本地区の核となる施設の整備とともに、拠点性のある公共施設整備が必要である。

○市民ニーズをふまえた利便性の高いまちづくりの推進

- ・ 市民ニーズに基づく、市民の生活利便性向上に向けた多機能施設の整備が必要である。

○中心市街地における回遊性の向上

- ・本地区の核となる施設を単に整備するだけでなく、他の地域（中心市街地）への波及効果を生み出すために、回遊性の向上に努める必要がある。



達成されたこと

- ・ 「おにクル」という文化複合拠点創出により、公共建築物の集約化・複合化が実現し、公共建築物保有量の適正化・適正配置の推進に寄与したが、まだ老朽化した公共施設が残っている。
- ・ 「おにクル」整備により、多様化する市民ニーズへの対応が可能となり、市民の利便性が向上。特にワンストップ拠点として子育て支援体制が充実し、安心して子育てができる環境が形成。さらに、主に乳幼児向けの遊び場を整備し、子どもの遊び場が確保されると同時に、保護者が交流できる憩いの場が確保
- ・ その他、大ホールをはじめとした様々なイベントスペースに加え、図書館や広場スペース等が整備されることで、中学生・高校生等の若年層だけでなく、幅広い世代が憩い集うことが可能となった
- ・ また、「おにクル」と連動する形で、元茨木川緑地の整備がなされ、「おにクル」を含めた中央公園との一体的・面的な交流・憩い空間が創出

残された課題

公共施設の老朽化に伴う都市機能の再編

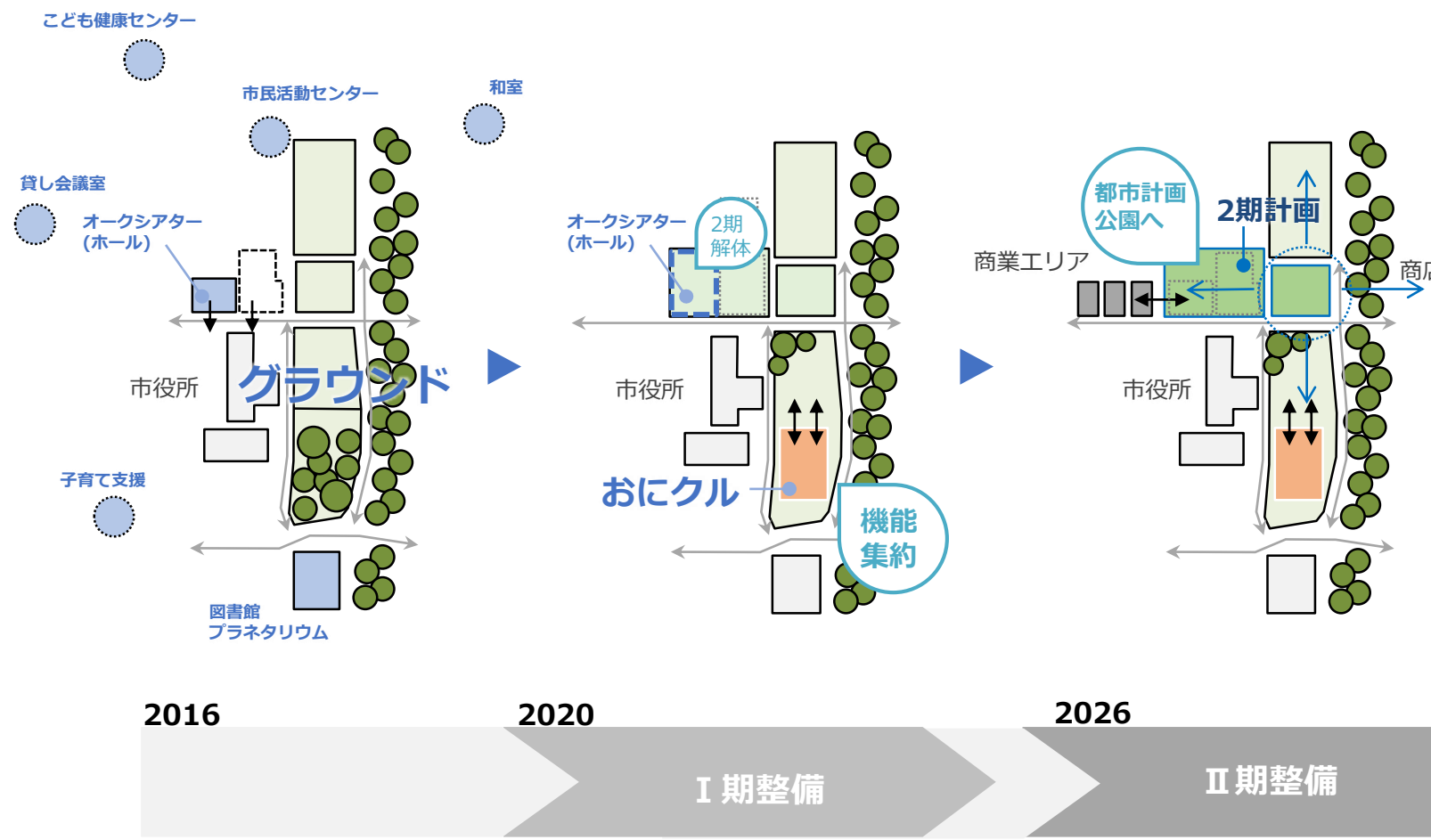
今後のまちづくり方策

改善する事項
公共施設の老朽化に伴う都市機能の再編



改善方針
公共施設の再編に伴う更なるパーク機能の充実

想定される事業
都市再生整備計画の第二期整備の実施



次期計画への活かし方

今回のまちづくりの進捗管理について評価し、今後の他地区のまちづくりに活かせる事項についてまとめる。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	いずれの指標も目標値を上回っていた。これは、「おにクル」を単一用途の施設としてではなく、文化複合拠点施設として整備したことにより、市民の利便性が大幅に向上したことがその要因の一つとして考えられる。	次期計画で整備予定としている都市計画公園についても、多様な使い方過ごし方があるため、単一的な機能を持たせるのではなく、様々な用途で共有し、複合利用ができるような広場の計画が望ましい。
	うまく いかなかった点	—	—
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	中心市街地の東西軸となる中央通りと東西通りにおけるデザインガイドライン計画策定に向けた将来像（素案）を検討するため、市民と専門家を交えた「いばらきストリートデザインワークショップ」を実施した。また、その結果を踏まえ、具体的な将来イメージの共有および実現にあたっての課題等を検証するため、社会実験「茨木みちクル」を実施する等、多くの住民参加が実現した。	ワークショップや社会実験を継続して実施し、市民が積極的にまちづくり活動に参加しやすい環境を整備することで、将来的な中央通りと東西通り活性化に向けた沿道の機運醸成に努める。
	うまく いかなかった点	—	—

6. 今後のスケジュールについて

今後のスケジュール

1月27日

事後評価会議



本日の確認内容をふまえ事後評価シートを事務局にて再整理

**2月末～
3月末**

事後評価結果を国へ報告



国が事後評価結果を確認

4月以降

事後評価結果を公表

・ホームページ掲載（公表期間は約1年間を予定）